

10月の学院福音化、1～2) マタイの福音書13章1～58節

マタイ13章には天国のたとえ話のみことばが7つ書いてあります。

- 1) 種を蒔く者のたとえ話 (3～9、18～23)
- 2) 麦と毒麦のたとえ話 (24～30、37～43)
- 3) からし種のたとえ話 (31～32)
- 4) パン種のたとえ話 (33)
- 5) 隠された宝のたとえ話 (44)
- 6) 高価な真珠のたとえ話 (45～46)
- 7) 網のたとえ話 (47～50)

これらは、天の御国、神の国がどのように与えられるのかについてです。つまり救いに
かん
関するのことばです。

マタイ13章の内容を簡単にまとめると、天の御国(救い)は何の値もなく、ただ恵み
によって与えられるものであり、すべての人に与えられるのですが、みんながすべて神の
國に入るわけではないことを記録しているのです。

聖書はアダム以後のすべての人間の状態がどのようなものかについて明らかにしています。

ローマ 3章10～18節

10 次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。一人もいない。

11 悟る者はいない。神を求める者はいない。

12 すべての者が離れて行き、だれもかれも無用の者となった。善を行いう者はいない。
だれ一人いない。」

13 「彼らの喉は開いた墓。彼らはその舌で欺く。」「彼らの唇の下にはまむしの毒がある。」

14 「彼らの口は、呪いと苦みに満ちている。」

15 「彼らの足は血を流すのに速く、

16 彼らの道には破壊と悲惨がある。

17 彼らは平和の道を知らない。」

18 「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」

罪の下にいるすべての人間は、とうてい実を結ぶことができない道端、岩地、茨の中の状態だということです。そのような人間に「石を取り除き、とげを取り除いて、穀物が育って多くの実を結ぶ良い地を作りなさい」、「からし種やパン種のような人生を生きなさい」、「神の国と福音宣教のためにすべてをオールインしなさい」などという熱心と献身を求めるみことばではなく、神様がいのちの種を植え、石を取り除き、茨を取り除き、実を結ぶ良い地を作り出してくれるということです。

エゼキエル書 36章 26節

あなたがたに新しい心を与える、あなたがたのうちに新しい靈を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

私たちの心に植えてくださったいのちの種は何でしょうか。それは、イエス・キリストです。

ローマ 3章 23~24節

23 すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、

24 神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められるからです。

ローマ 5章 8節

しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

このように、ひとり子を惜しみなくこの地に送ってくださった父なる神様の愛と、イエス・キリストが十字架で贖いの代価としてご自分のいのちを与えてくださったことによって価なしに恵みで救われた神の子どもたちに天の御国が与えられるのですが、そのことをたとえ話で語られたのがマタイ13章の内容です。なぜ、たとえ話で語られたのかについての説明も本文の中に記録されています。

マタイ 13章 11節

イエスは答えられた。「あなたがた（弟子たち）には天の御国の奥義を知ることが許されていますが、あの人たち（群衆）には許されていません。

聞かなければならぬ者たちだけが聞いて、他の者たちは悟らないように、たとえ話を語られたのです。

マタイ 13章35節

それは、預言者を通して語られたことが、成就するためであった。「私は口を開いて、たとえ話を、世界の基が据えられたときから隠されていることを語ろう。」

隠されていることを明らかに聞くことができる恵みがありますように、お祈りします。